

科目名	業務用語 2							年度	2026
英語科目名	Duties term 2							学期	後期
学科・学年	柔道整復科 1年次	必/選	必	時間数	15	単位数	1	種別※	講義
担当教員	星野虎之助	教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師（接骨院にて勤務経験あり）		

【科目の目的】

患者とのコミュニケーションを取るためにも必要な医療全般で用いられる専門用語を理解することを目的とする。

【科目の概要】

業務上必要な各用語について学びます。

【到達目標】

医学領域において、使用頻度の高い基本的な用語や患者さんとの会話に使いやすい時事に絡む医事用語、解剖学・運動学の用語から、診療情報の伝達に頻繁に用いられる病名や症状、治療方法や手術方法、検査名など臨床用語まで、日本語、英語名、ギリシャ語或いはラテン語およびそれら用語の略語を理解し、他の医学系科目の講義での専門用語を導入した講義にスムーズに参加できることを目標とする。

【授業の注意点】

医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	医療分野の職域について完全に理解している。	医療分野の職域について大体理解している	医療分野の職域について部分的に理解している。	医療分野の職域についての理解がやや不足している。	理解していない。
到達目標 B	診療科の区分について完全に理解している。	診療科の区分について大体理解している	診療科の区分について部分的に理解している。	診療科の区分について理解がやや不足している。	診療科の区分について理解していない。
到達目標 C	骨のマクロ解剖とミクロ解剖について完全に理解している。	骨のマクロ解剖とミクロ解剖について大体理解している	骨のマクロ解剖とミクロ解剖について部分的に理解している。	骨のマクロ解剖とミクロ解剖についての理解がやや不足している。	骨のマクロ解剖とミクロ解剖について理解していない。
到達目標 D	筋のマクロ解剖とミクロ解剖について完全に理解している。	筋のマクロ解剖とミクロ解剖について大体理解している	筋のマクロ解剖とミクロ解剖について部分的に理解している。	筋のマクロ解剖とミクロ解剖についての理解がやや不足している。	筋のマクロ解剖とミクロ解剖について理解していない。
到達目標 E	上肢・下肢の動きについて完全に理解している。	上肢・下肢の動きについて大体理解している	上肢・下肢の動きについて部分的に理解している。	上肢・下肢の動きについて理解がやや不足している。	上肢・下肢の動きについて理解していない。

【教科書】

毎回配布するテーマに沿ったプリントに準拠する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

試験と課題を総合的に評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		業務用語 2			年度	2026
英語表記		Duties term 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	医療分野の職域	医師、その他のコメディカルの職域を理解する	1 医師の職域	医師の職域、診療科の名称を理解する	3	
			2 柔道整復師の職域	柔道整復師の職域、医師との違いを理解する		
			3 その他の職域	コメディカルの名称、職域を理解する		
2	診療科の区分	細分化された診療科を理解する	1 医師と歯科医	医師と歯科医の違いを理解する	3	
			2 内科と外科	広義の内科と外科の定義を理解する		
			3 診療科の名称、内容	診療科の名称と対応疾患を理解する		
3	呼吸	重要な呼吸器系疾患を理解する	1 呼吸器の解剖	呼吸器の臓器を理解する	3	
			2 呼吸器系	呼吸器、酸素・二酸化炭素の流れを理解する		
			3 重篤な呼吸器疾患	異常呼吸の重篤性を理解する		
4	薬品	医療用薬品とその他の区分を理解する	1 医療用医薬品	処方箋、調剤薬局を理解する	3	
			2 一般用医薬品	一般薬局、医薬部外品を理解する		
			3 麻薬、毒薬	毒薬・劇薬、麻薬・ドラッグの危険性を理解する		
5	動作	日常生活動作を理解する	1 ケア、アフターケア	看護、介護の内容を理解する	3	
			2 ADL、QOL	ADL、QOLの意味、内容を理解する		
			3 後遺症について	病気や外傷の後遺症について理解する		
6	トレーニング	トレーニングの必要性を理解する	1 トレーニングの種類	有酸素運動、無酸素運動の違いを理解する	3	
			2 ストレッチの必要性	ストレッチの種類、必要性を理解する		
			3 適応症状	心肺機能回復、筋力回復のトレーニングを理解する		
7	力学的有利性	てこを種類と関節を理解する	1 第1のてこ	第1のてこの関節を理解する	3	
			2 第2のてこ	第2のてこの関節を理解する		
			3 第3のてこ	第3のてこの関節を理解する		
8	振り返り	後期1回～7回の講義の振り返り。	1 医療の職域	医師、その他資格を理解する	3	
			2 動作、トレーニング	トレーニング、後療法を考える		
			3 接骨院での適応	接骨院での適応、運用を考える		
9	骨（マクロ解剖）	骨の名称を理解する	1 骨の名称	全身の骨の名称を理解する	3	
			2 骨の種類	骨の種類、特徴を理解する		
			3 上肢、下肢の骨	四肢骨の形状を考える		
10	骨（ミクロ解剖）	骨折の再生過程を理解する	1 骨折の好発部位	骨折の好発部位を理解する	3	
			2 骨折の発生機序	骨折の発生機序を考える		
			3 骨折の癒合過程	骨折の癒合過程を理解する		
11	筋（マクロ解剖）	筋の名称、作用を理解する	1 筋の名称	全身の筋の名称を理解する	3	
			2 筋の種類	筋の種類、特徴を理解する		
			3 筋の拮抗作用	筋の拮抗作用を考える		
12	筋（ミクロ解剖）	筋の再生過程を理解する	1 筋の障害	筋の外傷、疾患を考える	3	
			2 筋挫傷の発生機序	筋挫傷の発生機序を考える		
			3 筋の修復過程	筋の修復過程を理解する		
13	肩甲骨の動き 脊柱の動き	肩関節の可動域と肩甲骨の関係を理解する	1 肩関節の動作	肩関節の全動作を考える	3	
			2 肩甲骨の特徴	肩甲骨の特徴を考える		
			3 肩関節の可動域	肩関節の可動域を理解する		
14	振り返り	後期9回～13回の講義の振り返り。	1 骨と筋	骨と筋の種類、特徴を理解する	3	
			2 骨折	骨折の発生から癒合を考える		
			3 筋挫傷	筋挫傷しやすい運動について考える		
15	上肢・下肢の動き	上肢、下肢の可動域、動作の名称を理解する	1 上肢の骨と筋	上肢の動きと拮抗作用を考える	3	
			2 下肢の骨と筋	下肢の動きと拮抗作用を考える		
			3 肩甲骨と骨盤	肩甲骨と骨盤の違いを考える		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等